

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
感動人生！ここに生きる元気な人間ひと

花を見ながら登校する子どもたち▲

作業中の皆さん▶



▲子どもたちとしだれ桜を植樹



■楽しい地域交流の場 金子コスモス会（金子）

金子駅近くを流れる霞川の河川敷が活動の場です。各自用具を持ち三々五々集まり、今日の予定を聞き、作業に取り掛かりました。時期が過ぎた草花を取り除き、新しく買って来た苗や自宅で種より育てた苗を持ち寄り植え付け、一方では伸びすぎた木々の剪定と段取りよく進めています。会員は、年齢も幅広く男性も多く夫婦での参加も多いとのこと。毎月第二第四日曜日が活動日になっています。この日は作業が一段落するとおしゃべりタイムで、楽しいコーラスも聞かれ、和やかな交流の場に変わります。会の発足は平成六年ですから、草木も大きくなってミニ公園の感じで、植物名を表示して花を見ながら周遊できるようにしてあります。暖かい日には幼児連れのお母さんや散歩途中の高齢者、休日には親子で草木につく蝶の幼虫の観察にと地域の方々の憩いの場にもなっています。

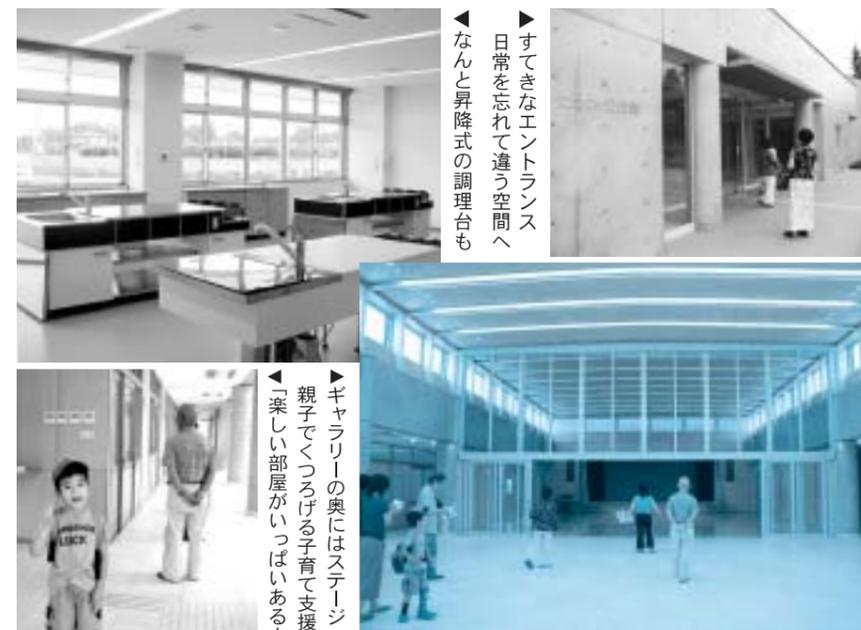
隣り合わせの道路は通学路になっており「今日は、の花が咲いている」「あの花なんていう名前？」と朝夕は小学生がにぎやかに眺めて行きます。子どもたちも彼岸花やしだれ桜を植え、大木の美しいしだれ桜となる日を楽しみにしているそうです。「お花畑では会員ばかりではなく子どもたちや地域の方々とふれあいを大切に、人や自然を大切に育めたいいな。」と話していました。



▲金子コスモス会の皆さん

「かがやく」の突撃インタビュー
1%二本木公民館リニューアルオープン

外観は澄ました美術館のような一階建て。ちょっとびり緊張して入ると、ほわっと木の香りと大きな窓に迎えられました。木の柔らかな感じとコンクリートが調和し、窓からは日の光が入り、まるで自然のスポットライトを浴びたようです。「人が主役になれる」そんな居心地のいい空間が広がっています。「地元の人達が気軽に利用でき、地域に新しい風が起これたら…」と職員さん。



▶すてきなエントランス
日常を忘れて違う空間へ
なんと昇降式の調理台も

▶ギャラリーの奥にはステージ
親子でくつろげる子育て支援室
「楽しい部屋がいっぱいあるよ」



広々とした空間は、文化活動や地域の会合、ステージ発表にギャラリーと、様々な目的で利用することが出来ます。また全館バリアフリーなど、赤ちゃんや高齢者 障害のある方にも優しい設計です。生まれ変わった二本木公民館。訪れる人々が自然と笑顔になる、そんな場所になりそうです。



☆第12回いるま生涯学習フェスティバル☆

あなたの学びで創るまち

子育て、福祉、環境、まちづくり等のテーマに添った催しや、芸術文化の展示や体験コーナー等。

※詳しくは11月15日号の「広報いるま」をご覧ください。

日時 平成18年12月3日(日)
午前10:00～午後3:45
場所 入間市産業文化センター・図書館・児童センター 他
共催 入間市・入間市教育委員会・(財)入間市振興公社
入間市生涯学習を進める市民の会
主管 第12回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

☆「学び」をお手伝いします!☆

- ◎いるま生涯学習ガイドブック
市主催の講座やイベント、近隣大学の公開講座等の情報
 - ◎いるま学びの場
公民館等で活動するサークルや市内の民間教室情報
 - ◎茶の都出前講座
市職員が講師として、ご希望の日・場所に入間市に関する講座をお届けします。
- これらの情報は、市役所(市政情報コーナー)や公民館でご覧になれます。入間市公式ホームページでも紹介しています。
<http://city.iruma.saitama.jp>

◎編集後記◎
この春、武蔵藤沢駅前から三本の巨木が姿を消して惜しむ人多数。失って身に染む曇りさかなの夏でした。樹陰は温暖化防止力特大。(E)
失敗しても、何回も焼けるのが七宝焼きの魅力ですが、紀元前古代エジプトで作られ、中国、朝鮮を経て八世紀ごろ日本に伝わった歴史あるものですね。(O)
何もかも初めての編集の仕事。期待と不安でスタートしました。温かいスタッフの方々に支えられて、がんばっています。(K)
いろんなスタイルで入間市をきれいにしようとして活動している人が大勢いて、知らずに恩恵を受けていたことに気が付き感謝しています。(S)
人はひとりでは生きていけません。アリガトウ、ハイ、スママセン。この三つの言葉が人の輪を繋いでいくのだと思います。(N)
日常が無彩色に感じられる時、ちょっと人間を散歩してみませんか。掃き溜めの中のかわいいお花に会えるかな。(Y)

企画編集：「かがやく」編集委員会
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 入間市教育委員会生涯学習課
連絡先 〒358-8511 入間市豊岡1-16-1
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841

市制40周年
記念の提案

胸にもう一つの笑顔をつけて...



■競技エアロビクス選手 健康インストラクター 小峰里奈さん

競技エアロビクス、この分野はオリンピック競技種目。今年五月、県大会が施行されたばかり。小峰里奈さんは04・05連続日本代表、06埼玉県大会第一位。十月の東日本大会に備えジャパソックスを目指して練習中です。

「結果よりも過程が好き。日々の練習で少しずつ出来るようになるのがうれしくて...目標は毎日を楽しむと、目には見えないけれど、腰に響くような骨盤の角度と股関節の回転を意識して、疲れにくい身体に」と強調されています。



田淵先生と大井久美子さん

楽しいリズムなわとび 大井久美子さん(宮寺)

「跳ばないリズムなわとび」は、元宮寺公民館館長の田淵さんが考案されました。それは、なわを体の周りで回旋させながら、ウォーキングとエアロビクスのようなステップを合わせたものです。

宮寺の体育館で大井久美子さんを中心に現在、六十代から七十代後半までの約四十名の



「跳ばないリズムなわとび」は、元宮寺公民館館長の田淵さんが考案されました。それは、なわを体の周りで回旋させながら、ウォーキングとエアロビクスのようなステップを合わせたものです。

宮寺の体育館で大井久美子さんを中心に現在、六十代から七十代後半までの約四十名の

古き歴史ある伝統工芸 七宝焼き作家 柴沼千鶴子さん(下藤沢)



かつて、ブームの時は公民館の「七宝焼き教室」は受講するのに大変でした。下藤沢に住む柴沼千鶴子さんは七宝焼きを始められて三十年。「母の勧めで始めたのがキッカケですが、母の引張りがないと続いたら出来ません」と感謝されています。

七宝焼きは、銅版にガラスの釉薬を高温で焼き付けますが、温度が微妙で電気炉に入れる時間の長短、釉薬の厚さ、薄さの加減で出来上がる作品の変化がおもしろいところだと魅力を

「亡き母の強い後押しのお陰で指導歴は十五年になりました。今、三つの公民館に眠っている七宝焼きの炉を使って、七宝焼きを楽しみたい方のお手伝いをさせて頂きたい」と話される熱い眼差しが印象的でした。



母が見守ってくれるので、がんばれませと柴沼さん。▲作品「タイガー」

まず、体を柔らかくしてから「サザエさん」「ソーラン節」などの聞き慣れた楽しい曲が流れると、なわを巧みに回旋し軽やかにステップを踏みはじめます。華麗で優雅、リズムミカルに手足が動きます。見ている方も自然に体が動いてきます。

普通のなわとびは、高齢者にはかなりハードですから、膝や腰を痛める心配があります。「跳ばないリズムなわとび」はリズムにのって無理なく



いま、学んで、輝いて

発見の喜びを写真に残して 人間市が大好き！



十一月の風の強い日で、山並みと富士山がくっきり見えた。それに魅せられ越してから十六年。未だに新鮮な発見がいっぱいと、人はあまり眼に留めない山野草や人間の自然を写した写真を見せてくれました。自ら十年以上も山野歩き、それを記録してこられたからこそ発見できる人間の魅力が斉藤さんのパソコンにはびっしり。

「霧川も目が放せないわね。カワセミや鶴、雉、大鷲まで来てくれた時は嬉しかった」と、人間の植物や動物に出会い触れることを喜びとし、格別な愛情で記録に残されています。溺愛や偏愛を超えたささやかな愛を実践して行くことで日常に張りや創られるライフスタイルがすすんでいます。



ハキダメグク

ヘルパー資格をお持ちで、点字翻訳にも挑戦中の斉藤さん。今一番の楽しみは断然植物ですが、御神輿を始め、

「スポチャン」ひとすじ 鎌田業継さん・好美さんで夫妻(金子)



最近、急激に愛好者が増えてきたスポーツチャンバラ(愛称 スポチャン)。

この日本発チャンバラごっこが今、スポーツとなって海外からも一躍注目を浴び、競技人口が激増。ここ数年で当初の十倍にものぼる三三万人を数える勢いです。その一翼を担い、人間市でいち早く活動を始めて八年の鎌田業継さん(四九歳)と奥さんの好美さん。

現在は護身道サムライスポーツクラブとして、市立体育館と金子公民館で三三三人の幼児から大人までの愛好者を育成しています。

「スポーツチャンバラの魅力は、老若男女を問わず、誰もが自由に、そして安全に楽しめることです。スポチャン特有の『エアソフト』と呼ばれる剣により、健康スポーツ、生涯スポーツとして愛着されるようになりまし。護身術を身につけるのにとっても役立ちます」と熱っぽくご夫妻で語ってくださいました。



好美さん・画

古木・巨木と生きる

がんばれ！ツゲの木

農業 狭山茶の栽培 十五代目 杉田孝志さん(上藤沢)



樹齢二五〇年といわれる柿と共に梨・つじ・グミが生存中の杉田家分家で、「うちの大本家にすこいツゲがあるよ」と教えて頂きました。それは柔らかな空気が漂う庭の左手で枝を竜のように泳がせ、威厳を放っていました。大本家十五代目杉田孝志さん(74歳)は、墓石によるとうちは慶安で、隣(本家十四代目)は元禄、シューちゃんのところ(分家十二代目)は十年ばかり前、板碑が出てきたんだよな」と。

慶安は、徳川三代・家光から家綱に代わる五年間(一六四八〜五二)。日光東照宮陽明門が建立されたころです。すっかり樹皮を落とした古柿と並んでツゲは三百余年も手入れされてきたことになりました。

「柿が覆っていてよく遊んだよ。ツゲの樹形は生まれたころから変わらな。三月から四月上旬に剪定するくらいで、台風でも心配はしない。数年前、二本の胴木(幹)の一方が枯れ始めてからは木の赴くままにしている。切ると言ったら？枯れるまで待て！」と言いますよ」と微笑まれました。淡々・純朴・自然体。昔から外国の方が好ましく感じた日本人の姿は、杉田さんのようだったに違いない。

